

5/15

全大阪の労働者・市民・学生のみなさん

米軍のカンボジア侵攻抗議 佐藤政府の東南アジア侵略阻止 愛知外相のアジア(反民族解放) 諸国会議出席に反対しよ

全ての労働者・市民・学生のみなさん！

4月30日、米軍と南ベトナム軍はカンボジアに侵攻しました。この米軍の暴挙は、南ベトナム民族解放戦線を中心とする民族解放勢力の戦いにより敗北を余儀なくされたことに対するあせりなのです。すなわち、カンボジアでは、3月18日クーデターにより、ロン・ノルタ政権を握りまいたが、彼らはベトナム人の大量虐殺を行ない、などでカンボジア国民の支持を失なっています。一方、追放されたシアヌークはカンボジア民族統一戦線を結成し、4月25・26日には、南ベトナム民族解放戦線・ヨース愛国戦線・ベトナム民主共和国とともに共通の敵アメリカ帝国主義を倒す“抗米救国”の斗争を推めることを決定しています。米軍の侵攻はこのようなインドシナ人民の斗争に対する义死の弾圧としてあるのです。

米軍の侵攻に対し、英・仏・米独等でさえも「反対」あ

る。これは「憂慮」を表明している中で唯一、佐藤政府は「カンボジアの中立を守るため、当然の措置」と支持声明を出しました。しかしカンボジア等インドシナの平和と中立を定めた1954年のジュネーブ協定を破ったのはアメリカだったのです。それにも関わらず、佐藤政府が支持しているのは、昨年11月の佐藤・ニクソンによる日米共同声明が述べているように、東南アジアへの侵出をたくらんでいるからです。

本日、愛知外相がアジア諸国会議参加のため、ジャカルタに飛立ちました。この会議はカンボジアの中立を守るためと言っていますが、参加国は全てベトナム参戦国あるいは準参戦国であり、アメリカによるカンボジア侵攻を免罪し、民族解放斗争を弾圧しようとすることは明らかです。佐藤政府は、このような会議に出席して、アジアで最も強い軍隊＝「自衛隊」の力を背景に、平和への敵対をますます

強化しようとしています。

私たちはこのような米軍のカンボジア侵攻に抗議し、愛知外相のアジア諸国会議への参加にはっきりと抗議し、佐藤政府の侵略政策を阻止しなければなりません。そのためには、佐藤政府のデマにまどわされず、核付きの沖縄「返還」自衛隊の沖縄配備に反対し、滋賀県のアイバー野毒近畿一円・長沼に設置されようとするミサイル基地に反対し、日本の独自核武装を阻止していく必要があります。

全ての労働者・市民・学生のみなさん！

それぞれの生活点・生産点・学園でこのような斗争を推し進めよう。

大阪平和委員会